

聖書箇所	ネヘミヤ 07:61~72
説教主題	「天に名が記されている喜び」
説教者	徳本 篤 師

序論) 自分がユダヤ人であることを証明することができない人々の問題

1948年にイギリス軍の援助の下で建国されたイスラエル共和国は「ユダヤ人のための国家」を基本理念としてスタートしましたが、国民を確保するために、素性の定かでない人間をも積極的に受け入れてきました。そのため、時の経過とともに“ユダヤ人の国家”としての純粋性を全世界に証明する必要が生じてきました。

幾つも異なる意見に分かれていることですが、現在のイスラエル共和国にロシアや東ヨーロッパから移住してきたほとんどがアシュケナージのユダヤ人でした。アシュケナージとは、彼らが創世記10:01~03に記録されているヤベテ族の子孫アシュケナズの末裔とされることからアシュケナージと呼ばれるようになりました。この人々はアブラハム、イサク、ヤコブとはまったく血縁関係を持たない人々です。8世紀以降にキリスト教勢力に対抗するためにユダヤ教に改宗した白人系のカザール人です。2003年に行われた遺伝子鑑定によるとアシュケナジのユダヤ人の約4%を構成しているアシュケナジのレビ族のうちにダビデの子孫の遺伝子をもつ人が50%を超えていたという報告があります。現在のユダヤ人がダビデの子孫であることを証明することは非常に困難なことなのです。

イスラエル指導部が頭を痛めているのは、自分たちがパレスチナに国をつくることを正当化できる理由として、『旧約聖書』の中で神がユダヤ人を選んで、カナン(パレスチナ)を与えたので、再びこの地に「戻った」と言い続けてきたが、その根本である自分たちがユダヤ人であることを立証できなければ、自分たちが大挙して他人の土地に押しかけて、アラブ先住民の土地を奪ったという国際社会からの批判を受けるようになることです。

現在の私たちは自分が日本人であることを証明するには、戸籍謄本(現在では戸籍全部事項証明書と呼ばれている)を提出することが求められます。しかし、戸籍法という法律が制定されたのは明治5年ですから、戸籍謄本によってそれ以前の祖先が誰であったかを証明することはできません。もし自分の先祖の菩提寺に過去帳の中にそれが保存されていたとしても、徳川幕府がキリシタン禁止令と並行して全住民に強制的に仏教徒に改宗させられたという檀家制度が制定されるまでです。それ以前にまで遡ることはよほど有名な貴族でもない限り不可能なことです。何代かに渡って日本に住んできたこと、日本語を話すこと以外の方法で自分が日本人であることを証明することは非常に困難なことです。

本論) 自分たちの先祖がイスラエル人であることを証明することができなかった人々はどうなるのか。

本日の聖書箇所ではこの問題が取り上げられています。7章61節と62節に「デラヤ族、トビヤ族、ネコダ族、642名がバビロンから祖国に引き揚げた時に、自分たちの先祖の家系と血統がイスラエル人であったかどうかを、証明することができなかった。」と書かれています。

系図がないと将来においてどんなことが起きるかをあらわす一つの事件が 13 章 7 節～9 節に記録されています。ネヘミヤは一時ペルシャ帝国アルタシャスタ王のもとに戻ることになりました。その留守中をよいことに、トビヤ家と親しくしていた大祭司エルヤシブは神の宮の庭にある一つの部屋をトビヤ家ために特別にあてがっていました。帰国後そのことを知ったネヘミヤは、それに対して激しく怒り、トビヤ家の家具類をすべて神殿の部屋から外へ投げ捨てさせたことが書かれています。

洞 察) 自分が神の家族であり、天の国民とされたという確かな約束のことば

ヨハネの福音書 1 章 12 節～13 節には「12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」と書かれています。神によって生まれたとは、キリストを信じた人々が神の家族のひとりに加えられたことをあらわします。

ピリピ 3 章 20 節には「20 けれども、私たちの国籍は天にあります。」と書かれていますが、それはキリストを信じた人々が天国の住民としての登録がすでに完了していることをあらわします。

もう一度、自分が神の家族であり、天の国民とされたという確かな約束のことばがどれほどに重要であるかを思い起こしてみましよう。

天国の戸籍謄本である「いのちの書」に名前が書かれているとは、自分が本当は誰であるのかを証明できない私たちにとって何と有難く、すばらしいことでしょうか。決して天国から外に投げ出されるようなことはありません。それどころか、ヨハネ 10 章 3 節には、私たちの羊飼いであるキリストが、羊である私たちの声を聞き分けて、自分の羊を一匹ごとに名前と呼んでくださることが書かれています。「あなたは確かにわたしのものだ。わたしの家族だ。」とキリストが保証してくださるのです。

応答と決断)

キリストはルカの福音書 10 章 20 節で、弟子たちに「ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」と語られました。

今日、私たちはそのことばへの応答として、昼も夜もこのことを思い起こして喜び感謝をあらわしたいと思います。更に、まだこの「よきおとずれ」を知らない多くの人々に呼びかけて、あかししたいと思います。